

気候変動を踏まえた河川施設のあり方検討委員会（第5回） 議事要旨

日時：令和5年11月14日（火） 10:00～11:30

主な意見は以下のとおり。

- 中小河川の洪水対策における目標整備水準の検討において、効率性の確認で費用便益比（B/C）のみ記載しているが、純現在価値（B-C）も追記した方が良い。
- 最終とりまとめのコラムにおいて、降雨波形を追加するとより理解が深まると思う。
- 「長時間豪雨」という表現は、数日続く降雨を想像することもあるので、「数時間続く豪雨」とかで表現すると良い。
- 将来においては AI の多様化による降雨の予測精度の向上を期待して、最適な施設運用等を目指すことも考えられる。
- 河川堤防と海岸保全施設の堤防高に関する考え方については、今回の整理で十分である。気候変動の不確実性を考慮し、今後モニタリングや最新の知見等により、必要に応じて堤防高の見直しを図ることが必要である。
- 今後、IPCC 等が発表する新たな気候変動に関する将来予測を注視し、適宜、アダプティブに適用していくことが重要である。

以上